

第6次総合計画

《将来像》

「郷土に愛着と誇りを持ち、豊かな自然の恵みを生かし、一人ひとりにやさしく、安全で安心して、健康で住み続けることのできる活力あるまち」

社会動向

- 少子・高齢化から人口減少社会へ
結婚や子育てがしやすい環境づくり、高齢者の生きがいや介護対策など、安心できる高齢社会対策
- 価値観の多様化へ
職業や生き方、家族形態の多様化、職業・結婚・生活様式などでの選択や自由度の拡大
- 共同体や生活単位の再構築へ
地縁型コミュニティから新しい共同体づくりに向けた検討
- 地域間の競争の時代へ
ふるさと納税、特区の推進など独自の地域づくりによる地域間競争
- 安全・安心重視へ
自然災害に対する防災体制、防犯や交通安全など生活安全対策の強化
- 循環型の環境社会へ
廃棄物対策の強化、リユース、リサイクルを基本の資源循環型社会の構築、自然環境の保全・継承
- 高速交通ネットワーク化とグローバル化社会へ
東京五輪、リニア整備、高速道の延伸など意思に関わらず、様々な分野での国内外の人々との交流機会の拡大、社会動向の日常生活への影響
- 情報・物流のネットワーク社会へ
行動圏の拡大の一方、家にいながらの買い物や消費行動など情報やモノの移動性の高まり
- 新しい助け合いや社会保障の視点の構築へ
行動圏の拡大や情報通信などの利便性の向上の一方、交通弱者や情報弱者、経済的な格差など従来の社会保障の視点の見直し

《大月市—地域づくり検討フロー》

グループ4

市民アンケートから

- 地域活動や行事への参加は
「している」66%、「していない」27%
- 市の将来人口については
「増加意向」66%、「現状維持」23%
「減少もやむなし」8.3%
- 産業の取り組みは
「優良企業の誘致」41%
「大型店舗の誘致」23%
「入浴等保養施設の整備」20%
「工業地の整備」20%など
- 広報大月を
「毎月読む」人は61%
「ホームページを見ている」人は23%
- 市の情報が充分伝達されていると
「思う」12%、「思わない」31%
- 今後、重視すべきキーワードは、
「福祉」26%、「自然」26%、「活気」25%
「子育て」17%、「定住」17%、「環境」16%
「産業」15%など
- 市の住良さについては
「住みよい(肯定派)」32%
「住みにくい(否定派)」38%
- 今後の居住意向は
「市内居住意向」69%
「市外への転出意向」29%

①地域の現況(10年間で良くなったところ)

- 1. 福祉・保健の充実**
 - 大月市立中央病院の改修
 - 子育て支援の充実
- 2. 都市整備の進展**
 - 大月バイパス・松姫トンネル開通
 - 大月駅前整備(観光案内所設置)
 - 桂川ウェルネスパークの整備
 - バイオマス発電所の建設が決定
 - 小中学校の適正配置完了
- 3. 教育・文化の充実**
 - 生涯学習の充実(短大と協力)
- 4. 産業・観光の振興**
 - 登山ブームにより、登山客が増加
 - 猿橋の観光客が増加
 - 軽トラ市やつきの市などのイベントの集客力向上
 - 飲食店を中心に若い経営者が増加
 - 地域おこし協力隊の活動や情報提供
 - 富士山が世界文化遺産に登録され、駅の利用客が増加した
 - 外国人来訪者の増加
- 5. 情報発信力の向上**
 - 情報発信を多く行うようになった

①地域の現況(10年間で悪くなったところ)

- 1. 福祉・保健面の問題点**
 - 医療機関が少ない(特に小児科)
 - 大月市立中央病院の常勤医師が少ない
- 2. 産業・観光面の問題点**
 - 農業従事者の減少に伴って耕作放棄地が増加している
 - 鳥獣被害が増えている
 - 緑、山、自然が有効に活用できていない
- 3. 都市整備上の問題点**
 - 火葬場など公共施設の老朽化
- 4. 人口減少による悪影響**
 - 少子高齢化の進展により高齢者一人世帯の増加
 - 地域の行事の減少に伴う住民が集まる機会の減少
 - 小規模商店が閉店し高齢者や障がい者などが買い物弱者となっている
 - 人口の首都圏への流出
 - 空家の増加
 - 子どもの減少による学校の統廃合
- 5. 財政課題の増大**
 - 病院や上下水道など、財政課題の増大

②地域の資源と可能性**1. 豊かな自然**

- 登山の観光化を図る(初心者向けコースの設置)
- 里山資本主義のコピーをする

2. 他に誇れる文化

- 猿橋がある
- 甲州街道がある
- 八ツ沢発電所がある

3. 教育環境

- 小中学校と地元との繋がりを増やす
- 大月短大や都留高校との関わりを増やす

4. 産業・観光に活かせる資源

- 市民農園の増加を図り、農業体験を行う
- 荒廃地見学ツアーの企画
- 鮎釣り客を誘致する
- 外国人観光客への対応
- 地産地消に取り組む(サービス業も地元を利用)
- 空家と農地をセットにした活用
- 織物等の大月独自の産業や文化のブランド化を図る

5. 福祉・保健

- 大月市立中央病院を活用して医療の充実を図る

6. 都市整備

- 路線バスを活用する
- 大月駅北側を活用する
- 近隣自治体と公共施設の共同管理・利用を図る

7. 人材

- 大月短大や都留高校の学生を活かしていく
- 人材バンクを活用する
- 専門知識を持つ人が関わるワークショップを開き、活性化を図る
- 大月短大の学生が、卒業しても大月市に残るシステムを作る
- ボランティア活動の促進を図る

8. 人口維持

- 人口維持から増加へつなげる
- 家賃補助を行う
- 首都圏への通学者や通勤者へ補助金を出す
- 市外で働いていても、住民票は大月に置いてもらう
- 市外から転居してきた人の相談にのるため、空き家等を活用して、転居者が集まれる機会を作る
- 市外から来ている大月短大の学生に、外からの視点で行政に関わってもらう

③地域課題**1. 産業・観光の振興**

- 駐車場、宿泊施設、入浴施設、トイレ、みやげ物屋などを整備する
- デジカメで気軽に応募可能な写真コンテストの企画
- 初心者向けの登山講習会を開くなど、登山者の安全性や利便性を向上させる施策を図る
- 登頂者に割引券を配るなど、登山客が商店街へ来るような施策を企画する
- 秀麗富嶽十二景すべて登った人に記念品を贈呈する
- 季節ごとの観光情報発信を行い、リピーター化を図る
- 地域の文化や日本の文化を駅前で紹介し、外国人の滞留を促す
- 大月バイパス沿いに飲食店等の看板を設置し、市街地に誘導する
- 近隣市町村と連携して観光ルートを整備する
- スタンプラリーや登頂記念品の贈呈を企画する
- ボランティアガイドを育成する
- 山林資源を有効活用する
- 自然体験イベントを充実させる
- 高齢者の労働力を活用する
- 特産品を開発し、PRする

2. 福祉・保健の充実

- 小児科・産婦人科の充実で子育てしやすいまちづくり
- 市外病院への交通費支給などの経済的支援を検討する
- イベントなどを通して、父親の子育て参加を促進する
- 子育てに関する満足度調査を行い、満足度の高いまちであることをPRする
- 高齢者がイベントに参加しやすくなるように経済的支援や情報発信を行う
- 大月市立中央病院の医師を増やす

3. 都市整備の推進

- 新しい市役所庁舎に、子供から高齢者まで集まれる憩いの場をつくる
- 各地域に、遊び場となるような無料の施設をつくる
- デマンドバスを取り入れる

4. 市役所の課題

- 市の各種計画が計画的に確実に実行できるようにする
- 市職員のイベント参加等の負担を軽くする
- 高校生・短大生が卒業後大月市に残るような奨学金制度などの施策を行う
- 市職員と高校生・大学生との意見交換を行う
- 優秀な学生を市の職員に推薦採用する
- 大月市立中央病院と近隣市町村の病院との経営ネットワーク化を図る

④今後 10 年間の重点取り組み**1. 産業・観光への取り組み**

- 市内への滞留時間を延ばすためのイベントなどの計画の充実
- 施設受け入れ体制の強化
- 登山を活用したイベントの開催
- 登山客の購買・施設利用の強化
- 地産地消の取り組みの強化(商店街の日常的利用を促進)
- 情報発信力を強化して大月市のPRを促進

2. 福祉・保健の充実

- 医療体制の整備
- 子育て支援の促進およびPRの充実
- 高齢者などの社会的弱者が困難と感じている部分に対して早急な支援の実施

3. 人口減少への対策

- 福祉施策の充実
- 雇用の促進
- 大月らしさを活かした生活スタイルを発信して移住者を増やす
- 移民を受け入れる

4. 子育て・教育環境の充実

- 協働への取り組みの充実と情報発信の強化
- 子どもが生まれ育つ環境の整備
- ふるさと教育の強化
- 奨学金の支給を増やす
- 都内などへの通学費用補助の実施

●他グループの視点を参考に追加した項目

特になし

⑤地域づくりの方向性(キーワード)

自然、活気、福祉、定住、子育て、やさしい、つながり、行ってみたい、
くらし、山と川、駅、観光、行きやすい、情報、暮らしやすさ、みんなで
つくるまち、住みやすい、終の棲家



⑥大月の将来像(テーマ)

老いも若きも安心のすみか 大月